

# 愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2014年37週 (9月2週 9/8~9/14)

2014年8月報

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

RSウイルス感染症、腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、デング熱について、感染症法施行規則の一部改正について  
病原体検出情報  
定点医療機関コメント  
RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、溶血性レンサ球菌感染症、咽頭結膜熱等

全数把握感染症発生状況 ( )内は件数。  
結核(32)、腸管出血性大腸菌感染症(7)、レジオネラ症(2)、アメーバ赤痢(3)、急性脳炎(1)、侵襲性肺炎球菌感染症(2)、破傷風(1)  
2014年8月報  
定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

## トピックス

### RSウイルス感染症(図)

37週の定点当たり報告数は0.69、36週80人  
37週125人(0歳37名、1歳54名、2歳21名、3歳8名、4歳2名、5歳1名、6歳以上2名)で、2歳未満の報告数が全体の72.8%を占めています。

### 腸管出血性大腸菌感染症(表)

愛知県の2014年報告数(診断週別)は、9月17日現在105件(O157 73件、O26 14件、O111 11件、O103・O121・O165 各1件、型不明4件)、溶血性尿毒症症候群(HUS)発症例は1件増えて6件です。

2013年の同時期(1~37週)報告数は170件、報告総数は211件(うちHUS発症例9件)でした。

### 【参考ページ】腸管出血性大腸菌

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2\\_4](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4)

### 咽頭結膜熱

37週の定点当たり報告数は0.29、36週74人  
37週53人(0.72倍)です。

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

37週の定点当たり報告数は0.78、36週120人  
37週142人(1.18倍)です。

### デング熱について

#### 【参考ページ】デング熱について(厚生労働省)

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue\\_fever.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html)

#### デング熱診療ガイドライン(第1版)について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dl/20140916-02.pdf>

感染症法(「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」)施行規則の一部改正について改正の概要は下表のとおりです。2014年9月19日から変更になります。

対象感染症	改正点
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	五類感染症(全数)に追加
播種性クリプトコックス症	
水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)*	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	五類感染症(定点)から五類感染症(全数)に変更

\* 水痘・带状疱疹ウイルスの初感染による感染症のうち24時間以上入院を必要とするものを対象とします。  
なお、五類感染症(定点)の「水痘」は、引続き小児科定点把握対象疾患です。

#### 【参考ページ】改正後の届出基準・届出様式等

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

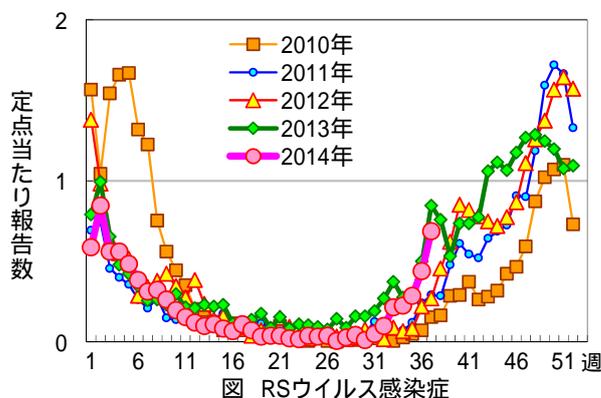


表 腸管出血性大腸菌感染症のO血清型別報告数  
(愛知県、2014年は9月17日現在)

O血清型	VT	2012年	2013年	2014年
O157		99 (1)	128 (2)	73 (5)
	再掲			
	VT1(+)/VT2(+)	48 (1)	88 (1)	46 (3)
	VT1(+)	3	12	11
	VT2(+)	38	27 (1)	12 (1)
	VT型不明	10	1	4 (1)
O26		36	45	14
O111		8	2	11
O103		5	10	1
O121		2	7	1
O165		1	1	1
O145		3	1	
その他、不明		9 (1)	17 (7)	4 (1)
報告数総計		163 (2)	211 (9)	105 (6)
[うち有症者数]		[104]	[153]	[82]

( )内は溶血性尿毒症症候群(HUS)発症者再掲

病原体検出情報 2014年疾患別ウイルス検出速報 (2014年9月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	*インフルエンザ	**麻疹・風疹
患者数	172	34	35	12	26	26	10	195	34(38)
CV-A2	-	-	1	-	-	1	-	-	-
CV-A4	1	2	14	-	-	-	-	-	-
CV-A10	-	2	4	-	-	-	-	-	1(0)
CV-A16	-	19	-	-	-	-	-	-	-
EV-71	-	1	-	-	-	-	-	-	-
CV-A9	-	-	-	-	-	-	-	-	3(0)
E-6	-	-	-	-	1	-	-	-	-
E-11	4	1	-	-	-	7	-	-	-
E-25	1	-	-	-	-	-	-	-	1(0)
E-30	-	-	-	-	-	1	-	-	-
FluAH1pdm09	-	-	-	-	-	-	-	55	(1)
FluAH3	-	-	-	-	-	-	-	56	-
FluB	-	-	-	-	-	-	-	52	1(0)
MuV	-	-	-	-	-	1	-	-	-
MeV	-	-	-	-	-	-	-	-	10(14)
RUBV	-	-	-	-	-	-	-	-	2(0)
Rota A G1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G9	3	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GI	2	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GII	57	-	-	-	-	-	-	-	-
SV	4	-	-	-	-	-	-	-	-
AstV	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	-	1	-	1	-	-	-	-	-
Ad-2	4	-	-	1	1	-	-	-	-
Ad-3	-	-	1	4	4	-	-	-	(1)
Ad-4	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Ad-5	2	1	-	-	-	1	-	-	-
Ad-8	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-41	10	-	-	-	-	-	1	-	-
Ad-54	-	-	-	-	1	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
HSV-1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
検査中	12	2	9	4	5	5	-	-	1(3)
陰性	80	6	5	1	13	10	9	32	15(18)

\*インフルエンザは2013/2014シーズンの検査結果

\*\*麻疹・風疹の( )内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略:ウイルス名(他の略名)

Ad:アデノウイルス、AstV:アストロウイルス、B19V:ヒトパルボウイルスB19、CV:コクサッキーウイルス(Cox.)、E:エコーウイルス、EV-71:エンテロウイルス71型、FluAH1pdm09:インフルエンザウイルスAH1pdm2009、FluAH3:A香港型インフルエンザウイルス、FluB:B型インフルエンザウイルス、HSV-1:単純ヘルペスウイルス1型、MeV:麻疹ウイルス、MuV:ムンプスウイルス、NV:ノロウイルス、Rota A:ロタウイルスA、RUBV:風疹ウイルス、SV:サボウイルス

定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

先週分からの4歳・6歳男、11歳女にカンピロバクター 検出

【一宮市 あさのこどもクリニック】

小学生～成人のアデノウイルス感染症あり

【一宮市 後藤小児科医院】

RSウイルスの小流行が3歳以下で見られます。

年長児では発熱がないためもあり検査していません。

【犬山市 武内医院】

RSウイルス感染症 増加しています。

ヘルパンギーナ 散発

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

RSウイルス感染症、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ等みられています。

手足口病の流行も続いています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

溶連菌 2名

突発性発疹 1名でした。

【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

ヘルパンギーナが多くみられました。

手足口病も目立ちました。

その他 溶連菌感染症等

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

おたふくかぜ 10人と流行中

【豊明市 こども元気クリニック】

RSウイルス感染が多いです。

百日咳が1例入院中

【春日井市 春日井市民病院】

RS やや目立ちます。

手足口病、ヘルパンギーナ 少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

RS感染症 増加中です。

【小牧市 小牧市民病院】

RSウイルス感染症がまた増加しました。

その他 手足口病 4例、ヘルパンギーナ 1例など

【小牧市 志水こどもクリニック】

RSV感染症 2名

手足口病がまだ多いです。

【半田市 ひいらぎこどもクリニック】

9歳男 カンピロバクター(+)

【大府市 まえはらこどもクリニック】

RSウイルス感染症 1名(4歳)

【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

イムノエース StrepA(+) 5歳女

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

アデノ(咽) 4歳女

カンピロバクター 6歳男

【岡崎市 花田こどもクリニック】

6歳男 マイコプラズマ肺炎

その他 特記すべきことはありません。

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

アデノ(+) 3歳女

【岡崎市 にいのみ小児科】

手足口病、流行性耳下腺炎 目立ちます。

【碧南市 永井小児クリニック】

黄色ブドウ球菌(+) 1歳 男

カンピロバクター腸炎 27歳 男

【西尾市 山岸クリニック】

病原性大腸菌 9歳男(O6、VT-)

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

アデノ(+)の胃腸炎 増加傾向

【豊橋市 あずまだこどもクリニック】

病原性大腸菌O6 0歳 男

病原性大腸菌O1 5歳 男

病原性大腸菌O25 6歳 女

【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2014年9月17日現在

一～三類感染症

<関連リンク>

届出基準(9月18日まで) <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun140726.pdf>

届出基準(9月19日以降) <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun140919.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2014年37週報告数			2014年総計(1～37週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	9	2	1	539	149	140
豊田市	4	2		52	15	17
豊橋市	2		1	52	13	20
岡崎市				43	20	8
一宮	3	2		118	30	37
瀬戸	6		3	102	17	38
半田				28	11	8
春日井				60	14	11
豊川				41	17	10
津島				47	12	17
西尾	2	1		32	15	5
江南	2	1		41	15	8
新城				3	1	1
知多				62	15	19
清須	1		1	37	5	15
衣浦東部	3	1	1	73	20	21
合計	32	9	7	1,330	369	375

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	35歳	男	9/1	9/1	9/8	O157、VT2(+)
2	名古屋市	38歳	女	9/4	9/5	9/10	O157、VT1(+)
3	岡崎市	26歳	女	9/4	9/6	9/10	O157、VT1(+)
4	岡崎市	2歳	男	8/23	9/6	9/11	O26、VT1(+)
5	豊川	13歳	女	9/3	9/6	9/9	O157、VT1(+) VT2(+)
6	知多	4歳	女	9/9	9/11	9/13	O157、HUS発症例
7	衣浦東部	20歳	男	-/-	9/6	9/9	O157、VT1(+) VT2(+) 無症状病原体保有者

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	豊橋市	69歳	男	肺炎型	国内
2	岡崎市	47歳	男	肺炎型	国内

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	63歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内
2	名古屋市	54歳	男	腸管アメーバ症	不明	大韓民国
3	知多	45歳	男	腸管アメーバ症	性的接触	国内、大韓民国

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	3歳	男	病原体不明	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	2歳	男	有	国内
2	瀬戸	69歳	男	無	国内

破傷風（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	豊田市	83歳	男	不明	国内

## 8月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況〔( )は無症状病原体保有者再掲。〕

2013～2014年に報告のあった 疾病名及び病型 ( )内は全数把握対象疾病数		2014年8月			2014年	2013年	
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>	
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0	
二類 (5)	結核	73 (25)	63 (12)	136 (37)	1,260 (357)	1,915 (468)	
三類 (5)	細菌性赤痢	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	16 (2)	
	腸管出血性大腸菌感染症	15 (3)	12 (2)	27 (5)	88 (19)	211 (58)	
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	
四類 (43)	E型肝炎	0	0	0	1	2	
	A型肝炎	0	0	0	7	4	
	チクングニア熱	0	0	0	0	1	
	つつが虫病	0	0	0	0	4	
	デング熱	0	0	0	6	14	
	マラリア	0	0	0	1	8	
	レジオネラ症	5	1	6	36	64	
五類 (18)	アメーバ赤痢	2	1	3	50	62	
	ウイルス性肝炎	0	0	0	9	16	
	内訳	B型	0	0	0	8	7
		その他	0	0	0	1	9
	急性脳炎	1	5	6	15	25	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	8	10	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	11	8	
	後天性免疫不全症候群	4	5	9	71	99	
	内訳	無症候性キャリア	4	3	7	47	64
		AIDS	0	2	2	23	33
		その他	0	0	0	1	2
	ジアルジア症	0	0	0	1	2	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症*	1	1	2	12	13	
	侵襲性髄膜炎菌感染症*	1	0	1	2	0	
	侵襲性肺炎球菌感染症*	1	1	2	78	76	
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	2	
	梅毒	4	3	7	82	54	
	内訳	無症候	0	2	2	40	25
		早期顕症	4	1	5	37	24
		晩期顕症	0	0	0	5	5
破傷風	0	0	0	1	5		
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	1	6		
風しん	0	0	0	17	375		
麻しん	0	0	0	46	25		
総 計		107	92	199	1,807	3,022	

\* 2013年4月1日から、5類感染症(全数把握対象疾患)に「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」が追加されました。なお、この2疾患( )を除く細菌性髄膜炎については引続き基幹定点把握対象疾患です。同じく5類感染症の「髄膜炎菌性髄膜炎」が「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2014年8月			2014年 累計	2013年 総計
		愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	80	54	134	1,062	1,746
	性器ヘルペスウイルス感染症	30	15	45	439	707
	尖圭コンジローマ	25	10	35	248	382
	淋菌感染症	35	31	66	467	708
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	85	16	101	774	1,212
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0	2	35	84
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	4	9
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2014年8月			2014年 累計	2013年 総計
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
エキノコックス症の犬	0	0	0	1	0

感染症の類型及び定義(感染症法)

2014年7月26日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (44疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症* (2疾病)	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

\* 2013年5月6日に指定感染症に定められた「鳥インフルエンザ(H7N9)」は、指定感染症としての指定期間が1年間延長されました。2014年7月26日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」が指定感染症に追加されました。



